



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和4年度 第1号
令和4年 4月6日

桜 いちょうが 風に舞う

校長 水野裕司

今年の3月は寒暖の差が激しく、体調管理のため毎日の服装の調節が欠かせませんでした。一方、永山さくら通りの桜が早くも風に舞い始め、校歌の「桜 いちょうが 風に舞う」そのままの新年度のスタートとなりました。

昨年度の3月、6年生を送る会でこの歌詞について「桜は春になるとピンクのトンネルを作ります。イチョウは秋になると黄金の並木道を作ります。色も季節も違いますが、それぞれが木の特徴を生かして、とても素晴らしい姿を見せてくれます。また、桜はイチョウにはなれないし、イチョウも桜にはなれません。同じように、6年生の皆さんも一人一人が自分らしく中学校で頑張ってもらいたいと思います。また、1年生から5年生の皆さんも、それぞれの学年らしい演技で6年生の卒業をお祝いしましょう。」という話をしました。

児童一人一人が、集団の中で自分のよさを発揮しながら「学ぶ喜び」を実感できるよう、日々の教育活動の充実に努めてまいります。

さて、昨年度末は3学級が学級閉鎖となってしまいました。綱渡りのような状態でしたが、スキー教室、6年生を送る会、卒業式等の行事は、無事に行うことができました。閉鎖になった学級では、一人一台のタブレット端末を活用し、グーグルミートを使った朝の会やロイロノートを使った課題の提示と提出など、ご家庭の協力をいただきながら、十分とは言えませんでした。なんとか子供たちの学習を継続することができました。感染の収束を願うばかりですが、第6波が収まりきらないうちに感染者数が増加に転じそうな模様となり、まだまだ困難な時期が続くのではないかと心配しています。多摩市の感染レベルも三段階のうちの「レベル3」となっています。学校での学びを止めないように、三密の回避やマスクの着用など基本的な感染症対策に引き続き取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、家庭で体調のすぐれない人がいる場合は、お子さんを無理に登校させないなどの、健康管理へのご協力をよろしくお願いいたします。

刻々と変化する状況に対応しながらの、教育活動となります。急なお願いや予定の変更等があるかと思いますが、ご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

— コミュニティ・スクールについて —

昨年度より、学校運営協議会と地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールとなり、地域・保護者とともに子供たちを育ててきた本校のよさを生かし、更に高めるように努めてきました。

昨年度は、学校運営協議会の運営方法などの確認を行い、学校の教育活動全般についてのご意見をいただき、学校運営に生かしてきました。2年目となる今年度は、地域学校協働本部の整備に力を入れてまいります。地域学校協働本部は、子供たちの学習の場を豊かにするために、学校と地域や関係機関をつないでいただく組織です。

本校では、瓜生ひろばの中心で活動されている村松美花さんに地域学校協働活動推進員をお願いしています。これまで瓜生ひろば等で行ってきた地域の活動と学校の授業の場での活動の関わりを整理しながら、充実を図ってまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。